

甘藷の流通に関する調査研究

坂 本 国 継*

SAKAMOTO, K. Marketing of Sweet Potatoes.

1. はしがき 畑作地帯における甘藷は経営経済的にかなり高く評価されている。一般には農家保有量が多くを占めるが、価格変動から来る販売量の多寡は経営内容にある程度の変化をもたらそう。農産物の商品化は基本的にはその商品の生産構造が流通機構を規制すると思うが、流通機構の型態が生産機構に及ぼす影

響も大きいと考えられる。本研究はこの観点から流通組織の解明を通じ、経営の適応方向または改善の方策を見究めんとする。調査は熊本県を対象に統計資料の蒐集整備を行うほか直接農家や仲買商人、需要者にあたり聴取を行つた。ここではその一部を報告する。

2. 流通量 本県の甘藷作付面積は昭和 29 年現在

第 1 表 昭和 28 年産甘藷需給実態

	収穫高	自 家 消 費				澱粉用	酒精用	切干用	青果用	その他	貯藏 欠減
		食用	飼料	種子	計						
実数(貫)	45685.578	1338.170	8127.502	2835.891	24344.563	11639.221	3589.766	2538.774	2353.580	545.458	474.219
比率(%)	100.0	29.3	17.8	6.3	53.4	25.5	7.9	5.6	5.2	1.3	1.1

* 九州農業試験場

第 2 表 澱粉原料用流通実態 (昭 28)

	供給総数	集荷経由別内訳			集荷先別内訳		
		単農実取扱	集荷業者取扱	工場直取扱	白町村内	郡内他町村	郡外
実数(貫)	11639.221	7817.866	2620.438	1200.897	4820.669	5362.556	1175.071
比率(%)	100.0	67.2	22.5	10.3	41.5	46.1	10.1

第 3 表 酒精原料用流通実態

	供給総数	集荷経由別内訳			集荷先別内訳			
		単農実取扱	集荷業者取扱	工場直取扱	旧式	新式	官営アルコール	全販連指定工場
実数(貫)	3589.766	1530.519	1734.031	325.216	420.221	500.540	153.381	2217.604
比率(%)	100.0	42.6	48.3	9.1	—	—	—	—

約 1 万 6 千町歩で 6 千万貫を生産し、九州では鹿児島、長崎、宮崎県につぐ生産県である。天草はその主産地で県内生産量の 2 割はここで生産され農林系品種が多いが、県全体としては 2 級品種が多く 6 割を占めている。従つて県外に移出される量は少ない。今、昭和 28 年産甘藷の用途別消費状況は第 1 表の如くである。すなわち、農家保有が 53.4% で、残りは澱粉用 25.5%、酒精用 7.9% で加工原料に 33.4% を占め、澱粉原料が流通界の王座をなしている。今澱粉、酒精加工原料の二つについてそれぞれ集荷経由別、集荷先別取扱数量を見れば第 2、第 3 表の如くである。集荷経由別には澱粉原料は単位農協で取扱うのが断然多く、酒

精原料は集荷業者つまり仲買商人の取扱がやや多い。集荷先別では澱粉原料は大体地元の澱粉工場で加工され、酒精用は大口の工場に全販連系統組織または集荷業者を通じて集荷されている。

3. 市場構造 具体的市場、つまり需要者ないし消費者は澱粉工場が最も多く農協系 30、工組系 39、計 69 で、酒精工場は 11、主要工場に三業酒造、日本酒類、東肥醸造、官営肥石大津アルコール工場などがある。農家と直接取引関係にあるのは云うまでもなく農協であるが、現在の共販体制にはかなりの問題があり、今後原料需要の増大に伴いその矛盾は一層進展すると予想される。